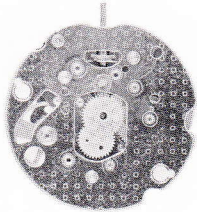
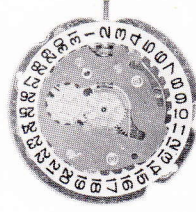
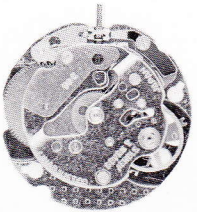
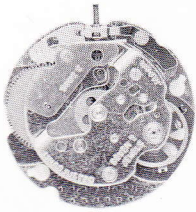


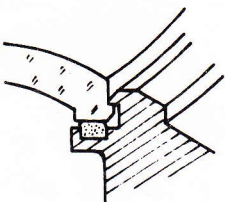
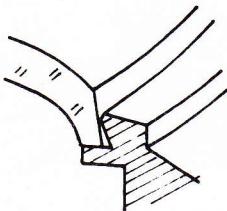
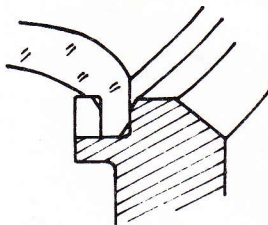
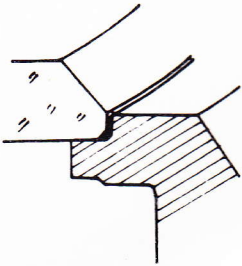
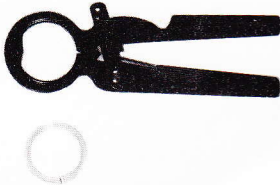
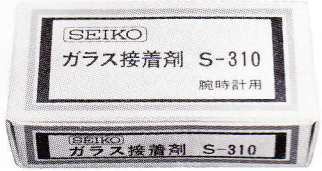
# 5005A

## 1) 仕様

機種	7石	50A・C	5002A・B・C
	略称	MTKA	MTKB
付加機構	手巻		
	—	—	日付
	—	—	日早修正装置付
機械落径	26.00mm		
機械厚み	4.40mm	4.80mm	
テンプレ振動数	21,600回/時		
外観			
			

- (※ 1 . 7石の50機種AとCとでは脱進機関係をはじめいくぶんの違いがあります。)  
 (※ 2 . 5002Bは文字板の固定方法(偏心ピン使用)のみ5002Aと違います。)

## 2) 外装構造

ガラス部			
しぼり式(パッキン付)	しぼり式	テンションリング式	接着
			
			

5005A・C	5006A・C	5018A	—
MTKE	MTKH	MTKG	
自動巻		手巻	
日付	日、曜付	デジタル表示機構	
日早修正装置付			
26.00mm			
6.50mm		5.90mm	
21,600回/時			

裏 プ タ 部		文 字 板 固 定		
ス ナ ッ プ 式	ス ク リ ュ ウ 式	足 ナ シ	受 リ ン グ 一 体	偏 心 ピ ン 固 定
		<p>文字板</p> <p>文字板受リング</p> <p>ツメ(3本)</p> <p>下板</p> <p>総受</p>	<p>文字板</p>	<p>文字板受リング</p> <p>文字板足</p> <p>偏心ピン</p>
		<p>・文字板は文字板受リングにハマ込まれており、そのリングは3本のツメで下板に固定されています。</p>	<p>・文字板と文字板受リングが一体となっており、3本のツメで下板に固定されています。</p>	<p>・文字板足を偏心ピンにより固定しています。</p>

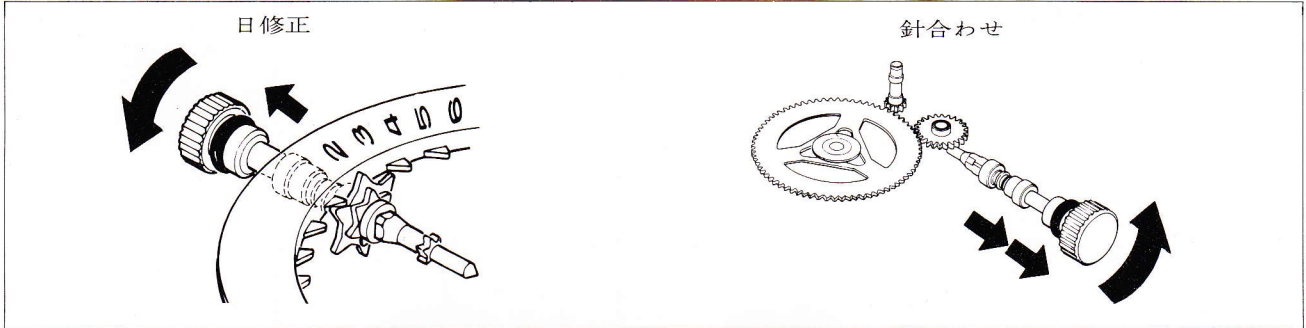


## 1) 特 長

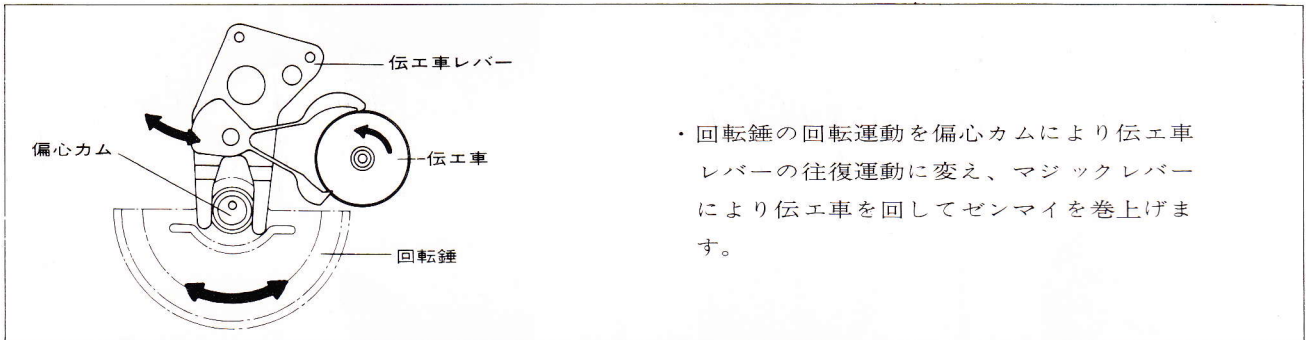
50系機種は受・輪列を分解しなくても洗滌・注油・調整ができるように設計された修理性のよい時計です。

## 2) 機 構

### <カレンダー機構>

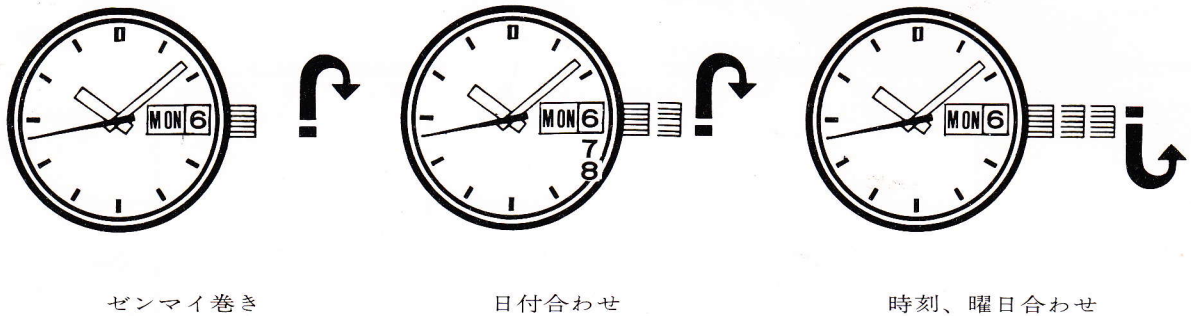


### <自動巻機構>

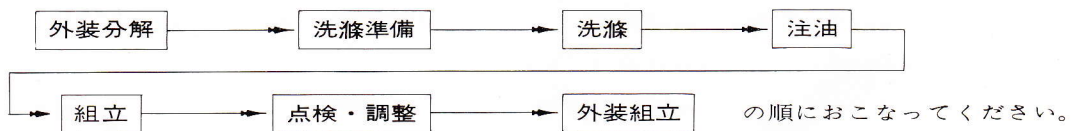


・回転錘の回転運動を偏心カムにより伝エ車レバーの往復運動に変え、マジックレバーにより伝エ車を回してゼンマイを巻上げます。

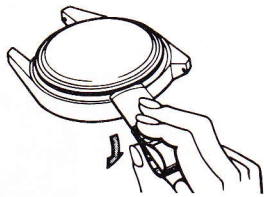
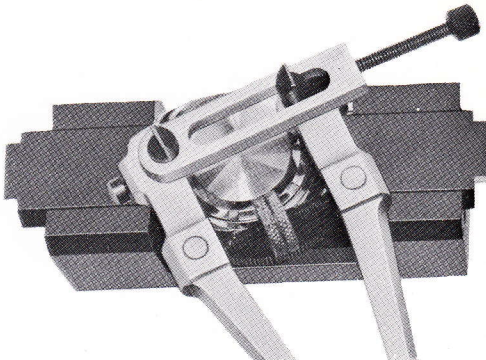

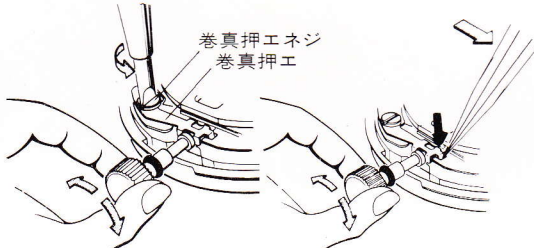
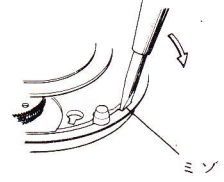
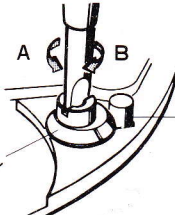
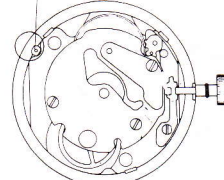
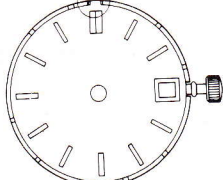
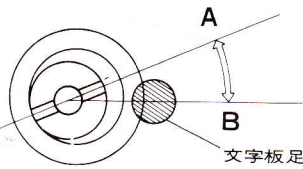

### ● カレンダー、時刻の合わせ方



## 3) 修 理

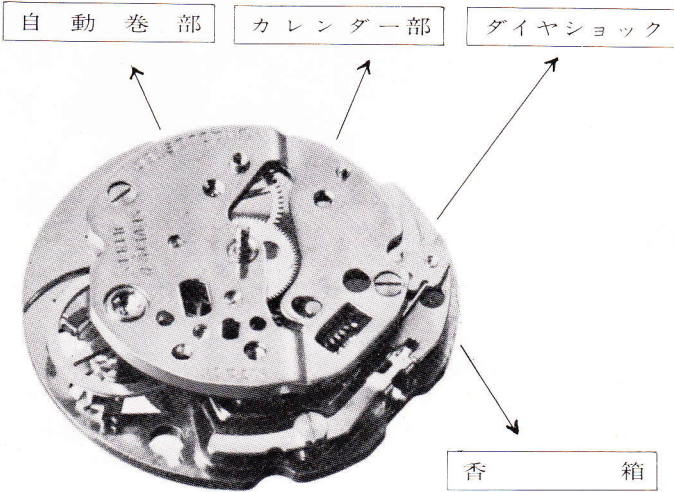


上記方法でおこなった結果、不具合のときのみ **機械分解・組立** を参考にし、受・輪列を分解・修理してください。

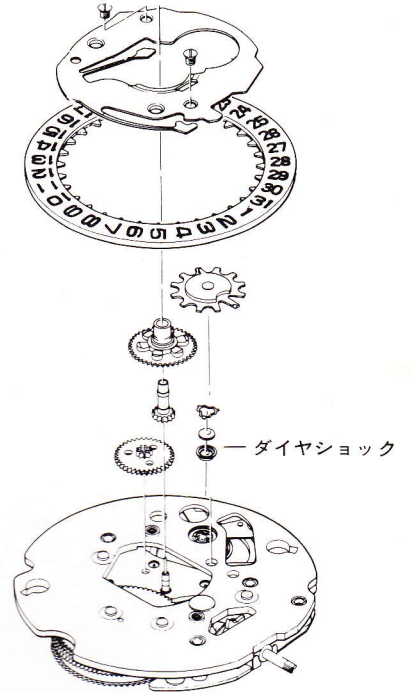
裏 プ タ	ス ナ ッ プ 式	ス ク リ ュ ウ 式
はずし	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・裏プタと胴のスキマに側開けを入れ、カンを支点にしてこじ開けます。</li> </ul>	
取付け		
巻 真	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="319 784 973 1137"> <p>はずし・取付け</p>  <p>巻真押エネジ 巻真押エ</p> </div> <div data-bbox="973 784 1528 1137"> <p>巻真押エネジをおよそ2回転半ゆるめ、巻真を回しながらはずします。それでもはずれない場合は巻真押エの先端➡部をもち上げてはずします。</p> </div> </div>	
文 字 板	足 ナ シ ・ 受 リ ン グ 一 体 文 字 板	偏 心 ピ ン 固 定 文 字 板
はずし	 <p>文字板受リングのミゾにドライバーを入れてこじ上げてはずします。</p> <p>文字板と文字板受リングははずす必要はありません。</p>	 <p>偏心ピンをAの方向に回してはずします。</p> <p>偏心ピン</p> <p>文字板足</p>
取付け	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="438 1433 662 1668"> <p>文字板受リング突起</p>  </div> <div data-bbox="718 1433 941 1668"> <p>文字板突起</p>  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・裏側の突起を下板の穴に合わせて押し込みます。</li> <li>・突起を文字板受リングの溝に合わせます。</li> </ul>	 <p>偏心ピンをBの方向に回して固定します。</p> <p>注意：偏心ピンを回し過ぎないこと。図の矢印部分にネジの割込部の延長線があること。</p> <p>文字板足</p>
ガ ラ ス	し ぼ り 式	接 着 式
はずし・取付け		<ul style="list-style-type: none"> <li>・取付けにあたってはケースとガラスの接着面をきれいにしてから接着してください。</li> </ul>

# 洗滌準備

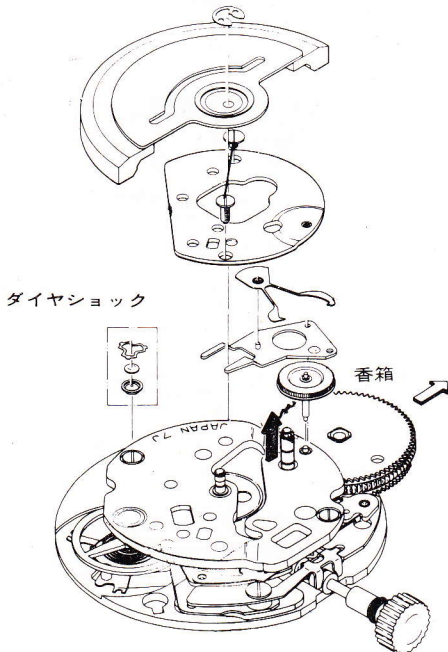
・受・輪列を分解せず、次の部品のみはずせば洗滌注油、調整ができます。



## カレンダーのはずし方

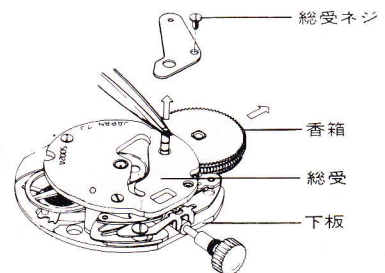


## 自動巻部のはずし方



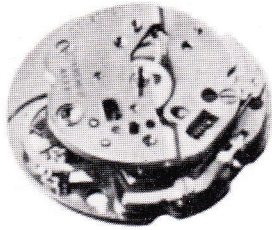
注意：香箱をはずすときは、ゼンマイを戻してからはずしてください。

## 手巻の場合の香箱のはずし方

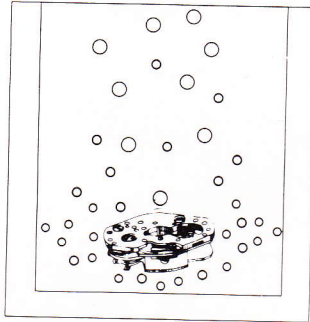




## <機 械>



超音波洗滌



すすぎ洗い

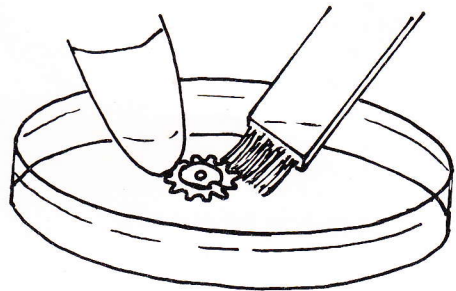


・トリクレンで超音波洗滌

\* トリクレンの温度は40℃以下

\* 洗滌時間は2分以内

## <プラスチック部品>



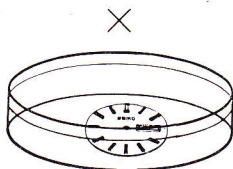
・アルコール(またはベンジン)でハケ洗い

## <一般部品>

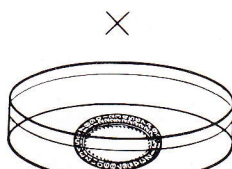
・一般時計部品と同様に洗滌してください。



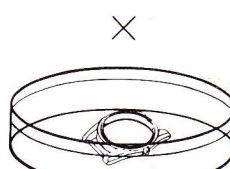
## <外装部品> \* 洗滌はしないでください



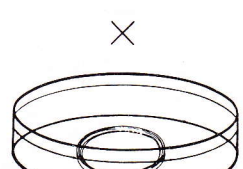
文字板



日 車

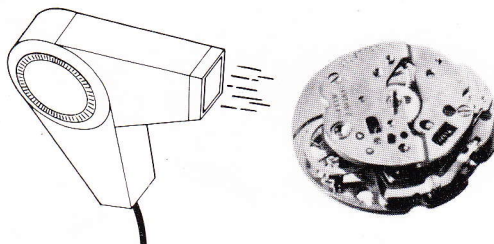


ケース



中 棒

## ◎乾燥方法



・ドライヤー等の温風を利用して乾燥

\* 乾燥時間は10分以内

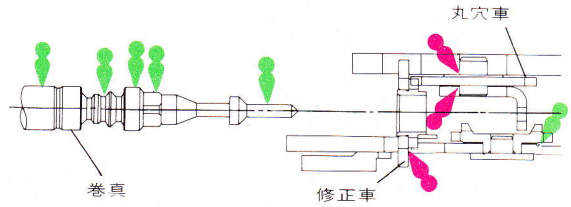
\* ヒゲゼンマイが付着していないこと。

# 注 油

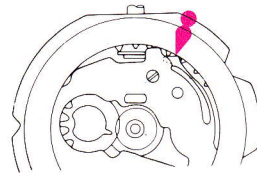
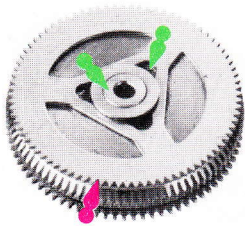
油の種類と量

● (Pink)	メービスシントAルーベ	●●● (Large)	多めに
● (Green)	セイコーウォッチ油 S-6	●● (Medium)	標準量
		● (Small)	極く少量

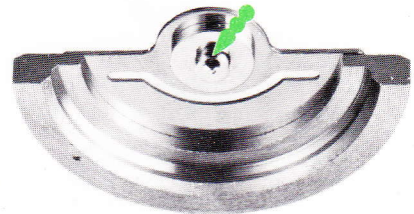
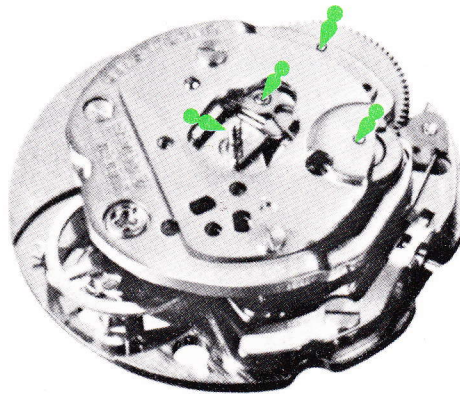
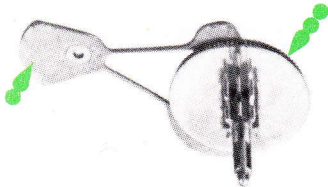
## ① 巻真・裏物の注油



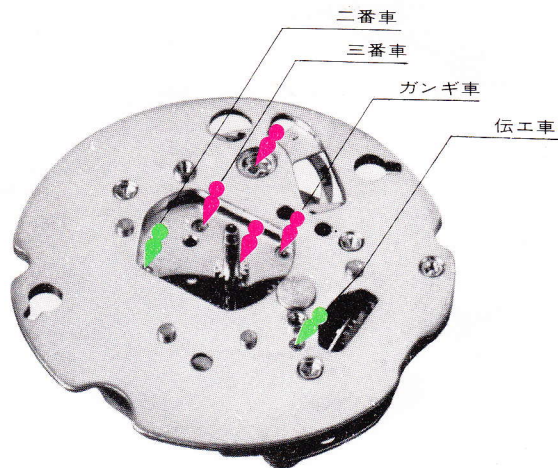
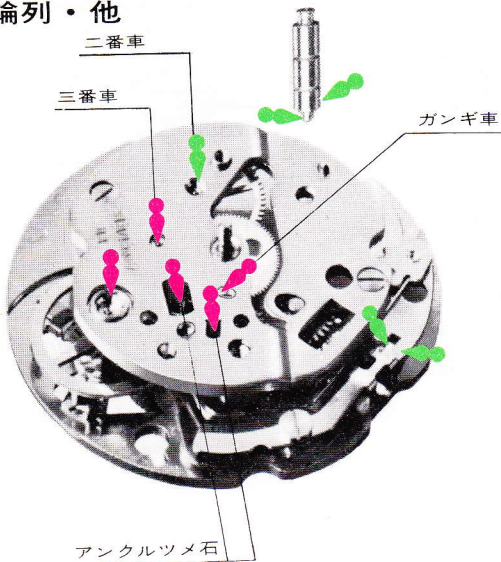
## ② 香 箱



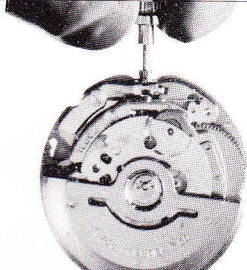
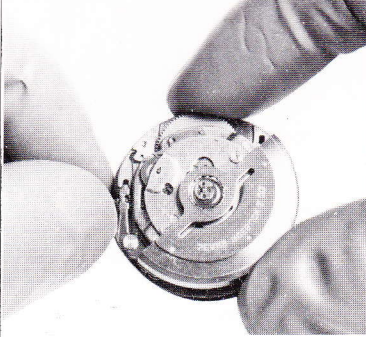
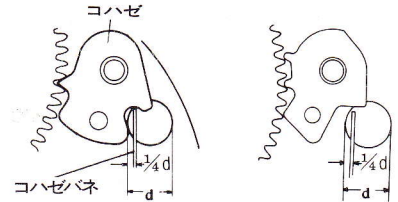
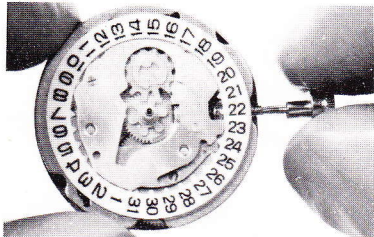
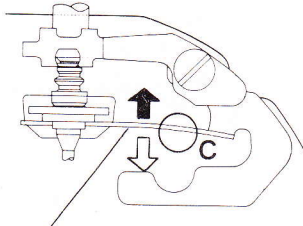
## ③ 自動巻



## ④ 輪列・他



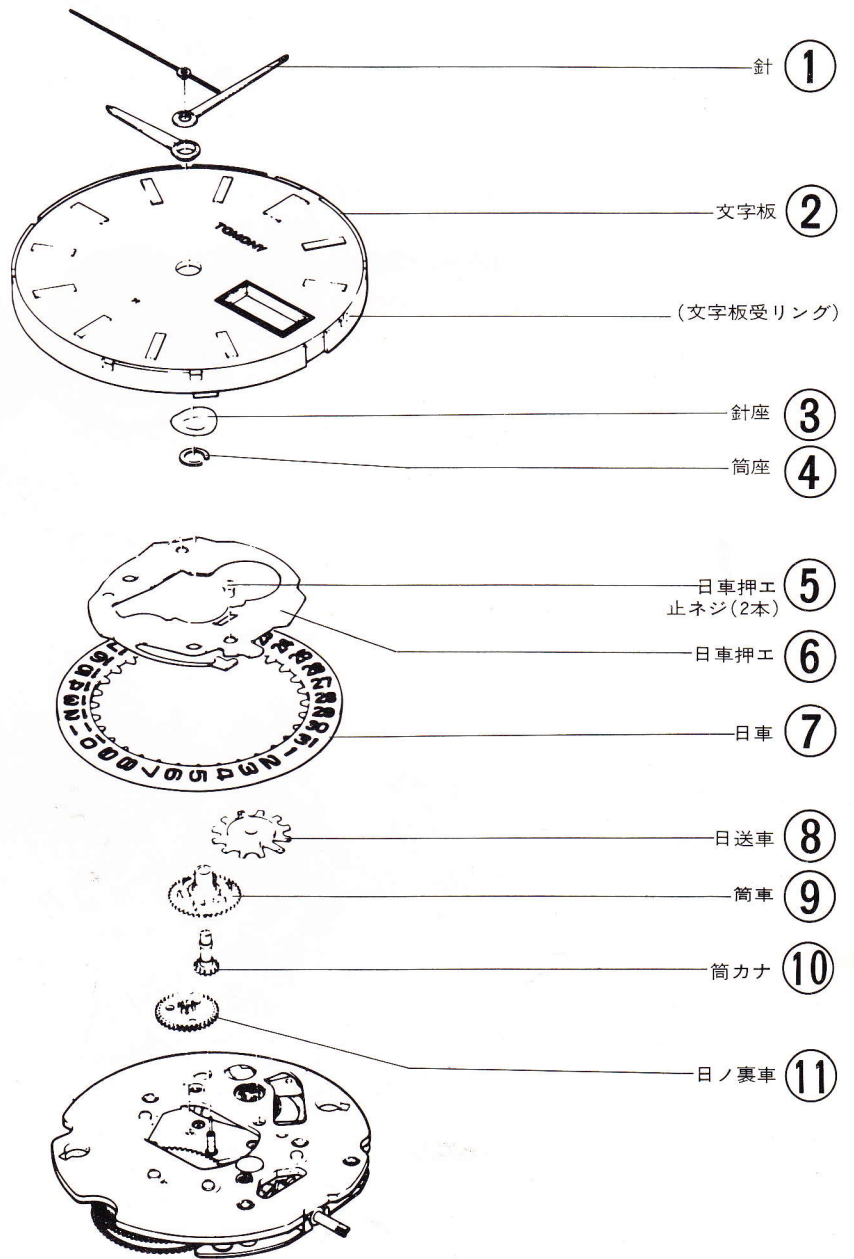


点	検	主な修理箇所
<p>① 自動巻</p> <p>(イ) 回転錘の回り具合 ゼンマイを全巻とした状態で、機械を左右にゆっくり回したとき、付き回らないこと。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・回転錘と機械のスレ</li> <li>・マジックレバーのはずれ</li> <li>・伝エ車のアガキ</li> </ul>
<p>(ロ) 巻上げ具合 回転錘を指で回して角穴車が回転すること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・回転錘と機械のスレ</li> <li>・マジックレバーのはずれ</li> <li>・伝エ車のアガキ</li> </ul>
<p>② 手巻具合</p> <p>(イ) 巻具合 リュウズを回してゼンマイが巻上がること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸穴車押エバネが、丸穴車の歯面からはずれている、斜めに当たっている。 A部を調整してください。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・コハゼバネの位置が、図のようにバネ先端が丸穴受の下穴直径 <math>d</math> の <math>\frac{1}{4}</math> 以内にあるかチェックします。悪いときは、上図Bを調整してください。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">自動巻                      手巻</p>
<p>③ カレンダー具合</p> <p>(イ) 日修正具合</p>  <p>(ロ) 日落具合</p>	 <p style="text-align: center;">日修正車バネ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下板の日修正車バネが弱くて、日修正車と日車の喰い合いがはずれていないか。悪いときはC部を→印方向へ調整し強めてください。</li> <li>・下板の日修正車バネのC部を⇨印方向へ調整し弱めてください。</li> </ul>



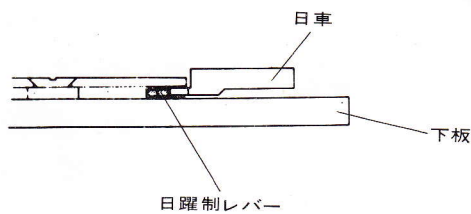
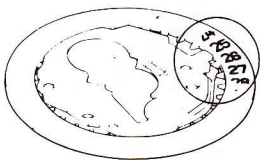
# 機械分解・組立

- ・分解は、図の番号①→⑪の順序でおこなってください。
- ・組立は、図の番号⑪→①の順序でおこなってください。

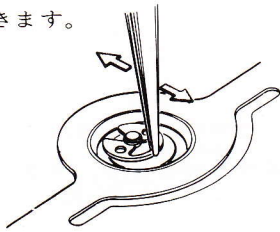


**組立時の注意**

日車押エの組み込みは、日車とセットしてから下板にセットします。この場合日躍制レバーを日車押エの下にもぐらせて日車の歯と噛み合わせます。



図の矢印の方向に取りはずしが  
できます。



① 回転錘押エ

⑩ 総受ネジ(2本)

ダイヤショックバネ  
ダイヤショック受石  
ダイヤショック穴石枠付

ダイヤショック上座体

自動巻なしの場合

⑬ テンプ(ヒゲ持なし)

⑭ 日修正車(キチ車付)

緩急針  
ヒゲ棒  
ヒゲ持受(ヒゲ持付)

ダイヤショック下座体

日修正車バネ  
(小鉄車)

② 回転錘

③ 伝エ受ネジ(2本)

④ 伝エ受

⑤ マジックレバー

⑥ 伝エ車レバー

⑦ 伝エ車

⑧ 香箱軸

⑪ 総受

⑫ 四番車

⑬ 角穴車

⑭ 香箱車

⑮ 二番車

⑯ ガンギ車

⑰ アングル

⑱ 三番車

⑲ 丸穴車

丸穴受

⑳ 巻真押エネジ

㉑ 巻真押エ

㉒ 巻真

下板



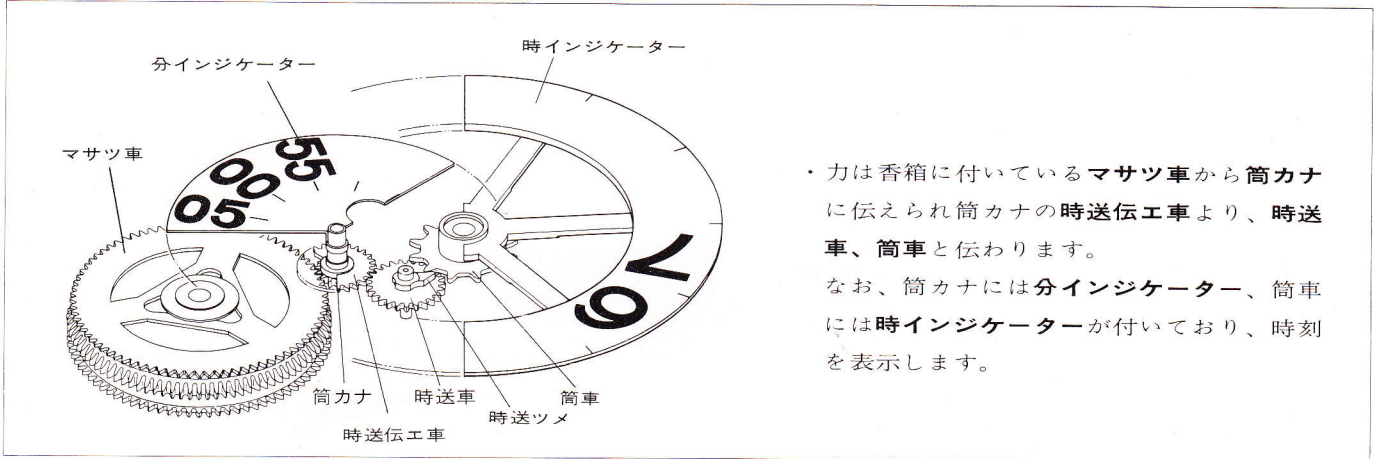
# 5018A

## 1) 特 長

50系機種の特徴である修理性が良いという内容を受継ぎ更に表示形態をデジタル表示とし見易さを考えた時計です。

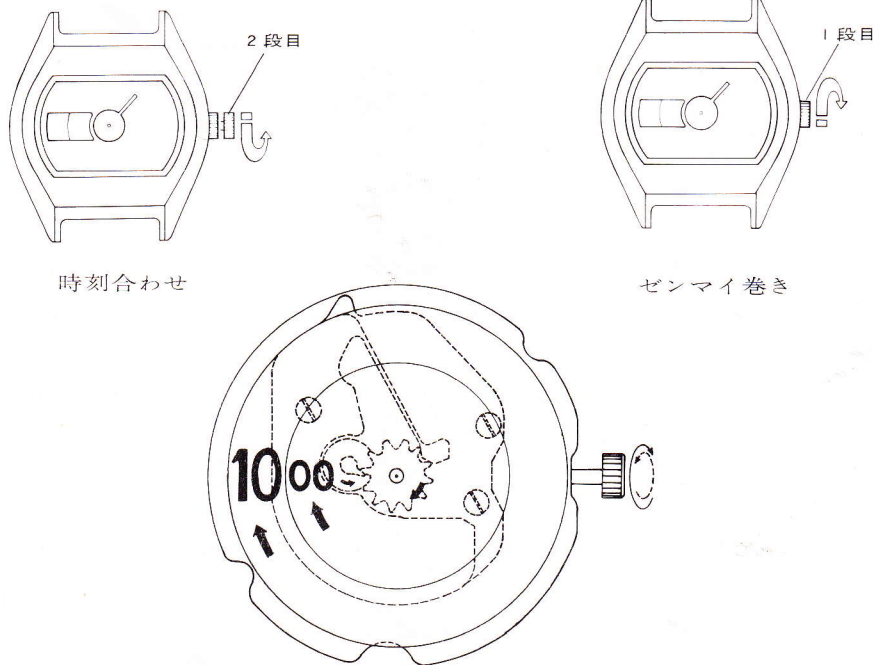
## 2) 機 構

### <デジタル機構>



・力は香箱に付いているマサツ車から筒カナに伝えられ筒カナの時送伝エ車より、時送車、筒車と伝わります。  
 なお、筒カナには分インジケータ、筒車には時インジケータが付いており、時刻を表示します。

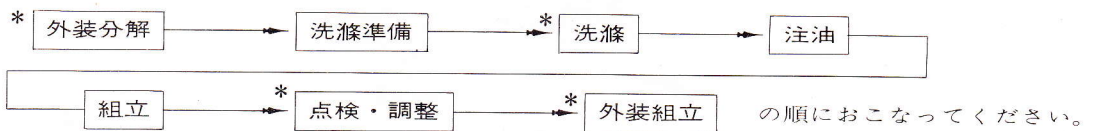
### ●時刻の合わせ方



## 3) 修 理

基本的には50系機種とまったく変わりありません。

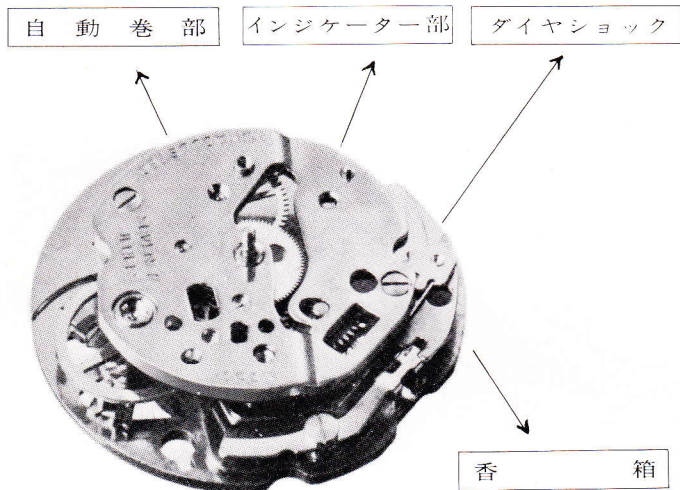
受・輪列を分解せずに洗滌・注油・調整をおこなってください。



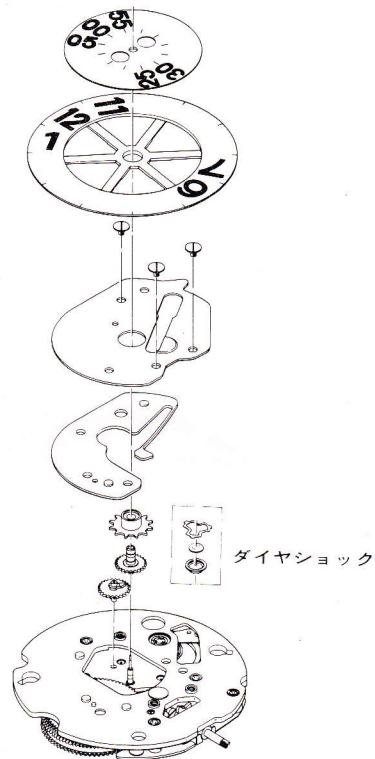
上記方法でおこなった結果、不具合のときのみ **機械分解・組立** を参考にし、受・輪列を分解・修理してください。

注意：\*印は5006Aの技術解説書を参照してください。

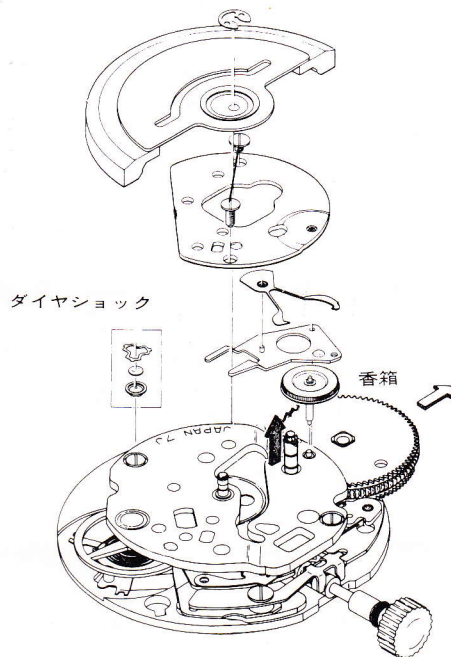
裏物部品のはずし方、自動巻部のはずし方、手巻の場合の香箱のはずし方



### 裏物部品のはずし方

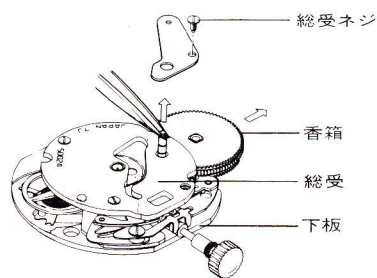


### 自動巻部のはずし方



注意：香箱をはずすときは、ゼンマイを戻してからはずしてください。

### 手巻の場合の香箱のはずし方

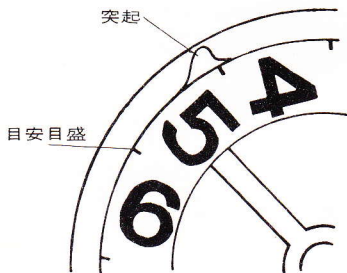




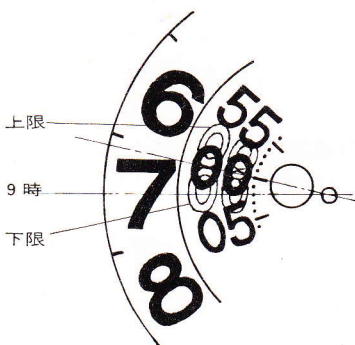
- ・分解は図の番号①→⑪の順序でおこなってください。
- ・組立は図の番号⑪→①の順序でおこなってください。
- ・表物部品の機械分解組立は、5006 A を参照してください。

組立時の注意

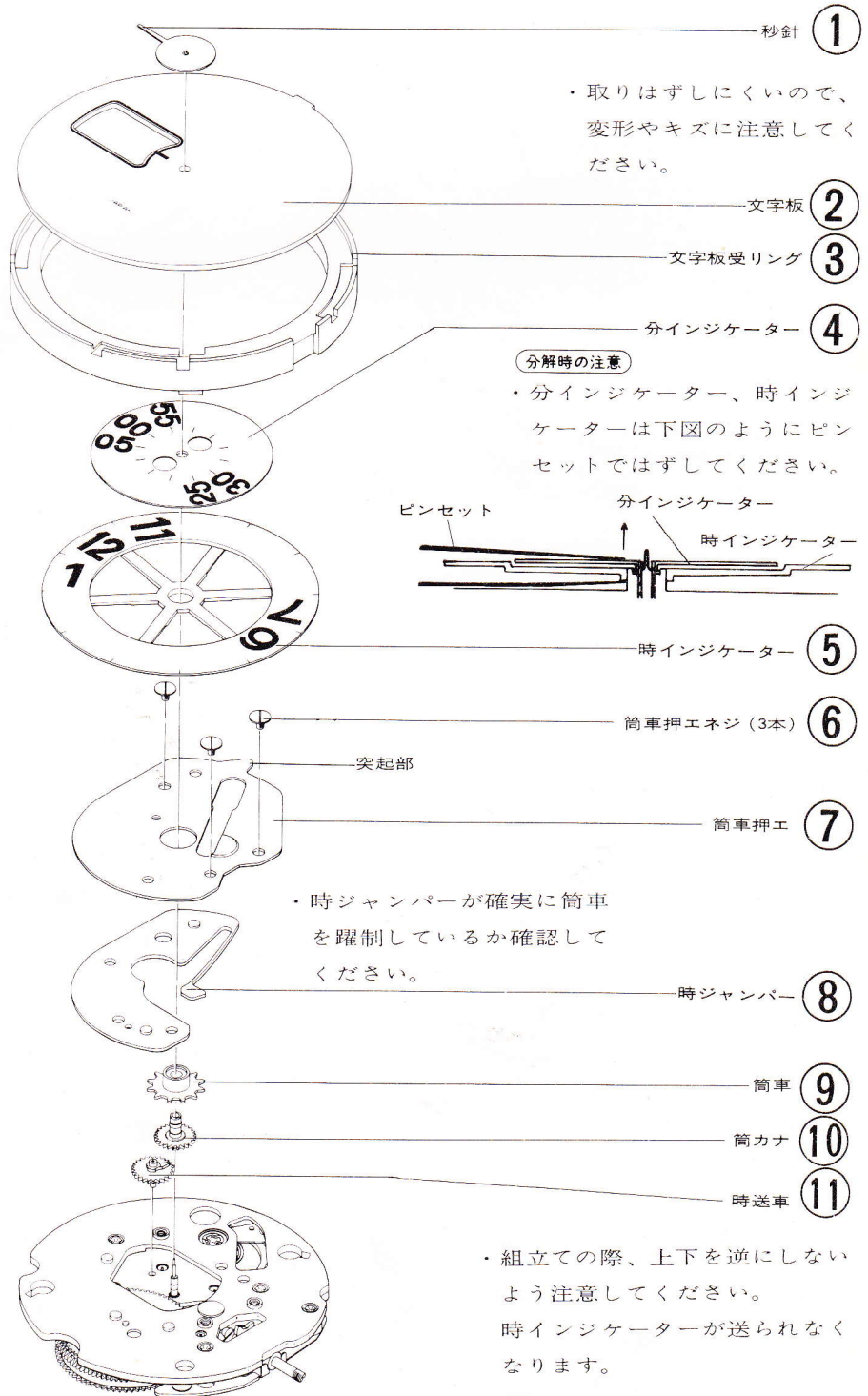
- ・時インジケータの組込目安目盛と筒車押エの突起を合わせて押込んでください。



- ・針回しをおこない、時インジケータが変わった直後下図のように押込んでください。



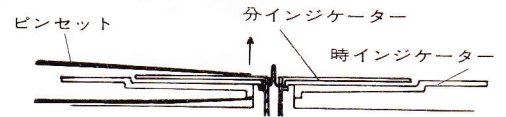
- ・分インジケータの00分が、時インジケータの9時方向にある数字の上端（上限下限内）にくるように合わせる。



- ・取りはずしにくいので、変形やキズに注意してください。

分解時の注意

- ・分インジケータ、時インジケータは下図のようにピンセットではずしてください。



- ・時ジャンパーが確実に筒車を躍制しているか確認してください。

- ・組立ての際、上下を逆にしないうように注意してください。時インジケータが送られなくなります。